

開催日時：平成19年11月2日（金） 15:00～18:00

場 所：大阪赤十字会館3階 302会議室

出席委員：池淵委員長, 中川委員, 久委員, 弘本委員, 堀野委員, 増田委員, 森下委員, 山下委員

1. 議 題

- (1) 二級河川王子川水系河川整備計画について
- (2) 一級河川大和川水系石川ブロック流域の概要について

2. 概 要

○二級河川王子川水系河川整備計画について

(まとめ)

二級河川王子川水系の河川整備計画（素案）について説明した。委員会での指摘事項を踏まえ、引き続き審議することとなった。

(委 員) 耐震工事について、民間事業者からのアイデア導入は考えられるのか。また、遠隔監視・操作について民間委託等は考えられるのか。

(事務局) 発注後、事業者等からのアイデアを取り入れることは考えられる。遠隔監視・操作については高石市職員により行われるものと考えられる。

(委 員) 「連携」という言葉を、具体的な内容のイメージがわく表現にすべきではないか。

(事務局) 具体例を記載するなど、表現について検討し、修正する。

(委 員) 下水道管理者との連携に関連して、内水浸水被害対策の必要性に関するコメントが必要ではないか。

(事務局) 治水の現状と課題で記載するなど、表現について検討し、修正する。

(委 員) 密集市街地内にある河川というオープンスペースの価値について評価を追加すべきではないか。

(事務局) 目標の記載と整合するよう、表現について検討し、記載する。

(委 員) 耐震工事に係る金額が記載されているが、どのような意図で記載しているのか、今後も記載していくのか説明がほしい。

(事務局) 新規事業の評価をしていただくために、現時点で出せる精度のものを提示している。

(委 員) 耐震工事に係る金額の記載については、金額や効果まで評価した結果として資料に記載すべきではないか。

(委 員) 耐震対策の工法選定の結論に至った経緯として金額の記載は必要であるのではないか。

(委 員) 地震に対して脆弱な箇所があること・液状化の恐れがあることのみを記載すればいいのではないか。

(事務局) 資料の位置づけを明確にするとともに、それに応じて表現について検討し、修正する。

(委員) 小高石橋の掛け替えについて、整備計画には記載しないのか。

(事務局) 橋の架け替えは周辺への影響が大きく、10年以内の整備は、現実的に難しい。

(委員) 流量配分図では、50mm/hrの降雨による流量を記載すべきではないか。

(事務局) 50mm/hrの降雨による流量に修正する。

(委員) 計画を工夫することで、1/100確率降雨への対応が可能とならないか。

(委員) 今回の指摘事項を十分精査し修正した上で、引き続き、整備計画(素案)について、審議することとする。

○一級河川大和川水系石川ブロック流域の概要について

(まとめ)

一級河川大和川水系石川ブロック流域の概要について説明した。委員会での指摘事項を踏まえ、引き続き審議することとなった。

(委員) 水生生物の瀬と淵に生息する種数から、湛水域の形成には結びつかないのではないかと。

(事務局) 関連性がわかるよう整理し、修正する。

(委員) 地域の社会特性がわかりにくい。1次産業中心の地域が、宅地開発により市街化したことで、地域にどのような問題をもたらしたのかをデータ・分析を踏まえ整理し、計画に反映させてはどうか。

(委員) 本地域は大阪府を代表する特徴的な自然景観資源を持っており、資源に根ざした文化をつくってきた地域なので、(支川の)生活と密接に関連する景観文化や自然文化について整理してはどうか。

(委員) 比流量図や、流出特性(ハイドロ)、河床変動、土砂管理、粒度分布等の情報についてまとめてはどうか。

(委員) 流出抑制の観点から土地利用の動態(放置林・耕作放棄地)、法規制(禁猟区・国定公園・保安林)などのデータについて整理を行い、流域の流出抑制について、今後どう考えていくのかまとめてはどうか。

(委員) 大阪府唯一の都市計画決定された石川河川公園という位置づけをはっきりさせてほしい。河川空間利用という形の中の1項目として扱うのか、大きなビジョンとして特出しで扱うのか。

(委員) 近^{ちか}つ^{あすか}飛鳥や寺内町など、非常に歴史文化が厚い地域だということを踏まえ、「川と歴史」「川と文化」というような形でのまとめ方にしてほしい。また、川が作りあげた街であったが、近年、切れてしまっている。歴史から街づくり、川づくりを考えてはどうか。

(委員) 富田林寺内町は、府下唯一の伝統的建造物群保存地区に指定されていることが特徴であり、記載いただきたい。

- (委員) 近年の少雨傾向を示すグラフについて、平滑化の方法等の補足をすべきではないか。
- (委員) ダムに関して、運用ルール・操作ルール等記述いただきたい。
- (委員) 水害状況のデータについて、どのように使っていくのかが伝わらないので、今後本データの使い方を念頭に置いた上で、資料の整備をすべきではないか。
- (委員) 多様な生息環境について、瀬と淵以外に、上下流や横のつながりなどについても、生物や水量のデータ等から考察を加えてはどうか。
- (委員) ダムについて、かんがい期や非かんがい期のような大括りによる取水配分等のデータを加えてはどうか。

- (委員) 今回の指摘事項を踏まえ、新たな知見・データ等整理し、引き続き審議をつづけることとする。